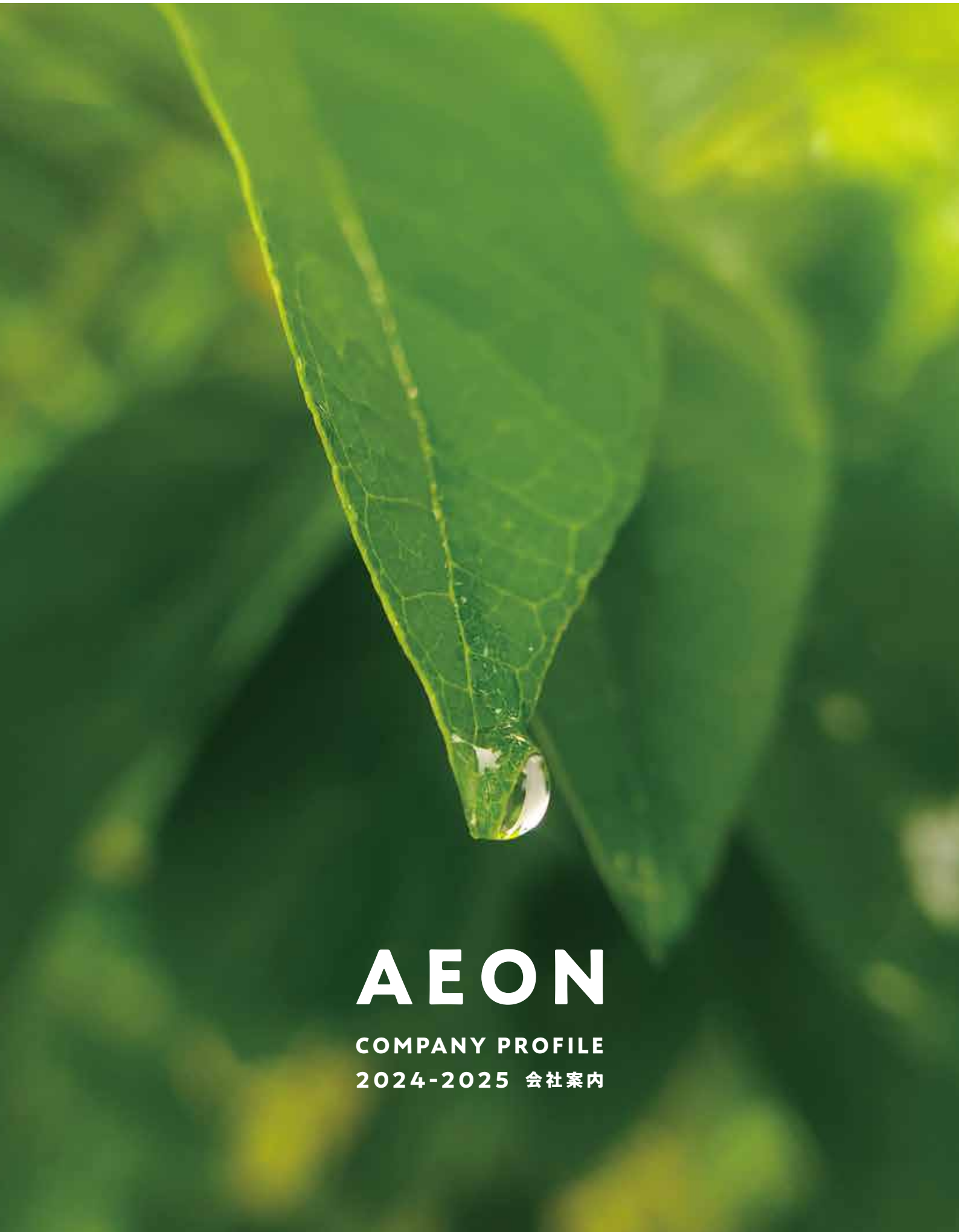
木を植えています
私たちはイオンです



AEON

COMPANY PROFILE
2024-2025 会社案内

イオンの経営者は、90万人以上。

イオンは本年度、株式上場50周年を迎えました。
企業価値の最大化に向け
ガバナンスにおいても更なる進化を目指し、
上場企業の中でもいち早く指名委員会等設置会社へ移行、
ハイブリッド出席型の開かれた株主総会を開催するなど
時代を先取る革新に努めてまいりました。

イオンは、
「お客さま株主」が90万人を超える企業です。
お客さまでもある株主の皆さまの声を
売場やサービス、そして経営に生かすことができるからこそ
次の新たな一歩へつながり、
より良いくらしを実現できると信じています。

経営をともにするより多くの皆さまと
豊かな未来を目指して

イオンの成長が地域の豊かさにつながり、多くの皆さまから応援され、期待される企業を目指して。

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社を取り巻く経営環境は、地政学リスクの高まり、不安定な為替相場、各地での異常気象や社会的な格差の拡大など、多くの社会課題に直面しています。とりわけ世界的なインフレ進行による物価高は、地域生活者の暮らしに大きな影響を与えています。2023年度は、日本国内において経済の正常化やインバウンドの高まりに伴う消費の活発化に加え、企業による賃上げ率が過去最高水準となるなど好景気の側面が目立ちました。その一方で、急激な物価上昇による実質賃金マイナスの長期化や、金利上昇による家計負担の増加懸念などにより、日々の生活における消費者の節約志向は高まっており、景気の先行きは不透明さを増しているものと考えております。

こういった不確実性が高い環境下においては、企業の根幹である基本理念やビジョンに基づく確固とした経営がより重要であり、環境変化を捉えた事業活動を通じて、地域社会の抱える課題解決に貢献していける企業が健全で持続可能な成長を保っていけるものと考えています。昨年度、「イオンの基本理念」に込められた想いを語るナラティブ（伝承文）を策定し、会社定款に記載するとともに、グループの道しるべとなる「イオングループ未来ビジョン」を新たに策定するなど、基本理念とビジョンの浸透活動に取り組んでまいりました。

基本理念を起点に策定したグループ中期経営計画（2021～2025年度）は、昨年度3年目の折り返し地点を迎えました。「デジタル」「商品」「健康」「地域」「アジア」「環境・グリーン」の成長戦略の実行性が高まり、グループ連結の営業利益が過去最高を更新するなど、成果につながってまいりました。

2024年度は、1974年9月に東京・大阪・名古屋の3証券取引所に上場してから、50周年を迎える節目の年となります。当時、関西・中部圏に約100店舗を展開していたジャスコは、皆さまのご支援のもと、現在では日本・中国・ASEAN各国を中心に約1万7千店舗、営業収益9兆円を超えるグループへと成長しました。今後も、イオンの成長が地域の豊かさにつながり、お客さまをはじめとする多くのステークホルダーの皆さまから応援され、期待される企業を目指し、これからも既成概念に捉われない「革新への挑戦」を続けてまいります。

イオン株式会社
取締役 代表執行役社長　吉田昭夫

イオンの基本理念

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。

イオンは、小売業が平和産業であり、人間産業であり、地域産業であると信じ、
その使命を果たす企業集団として永続するために、
お客さまを原点に絶えず革新し続けてゆきます。

平和は、戦争や災害からの復興にしても、平穏な生活の維持・増進にしても、能動的で意識的な関与なしにはもたらされません。こうした思いの原点には、岡田卓也名誉会長相談役の実体験があります。戦後、チラシを手にして店頭に並ばれたお客さまが「戦争が本当に終わったんだな」と涙された姿を見て、小売業の存在こそが平和の象徴であると実感したと言います。そこから、小売業が成り立つためには平和が大前提であり、小売業は平和の維持に貢献していかねばならないと決意したのです。

平和とは、戦争や暴力がないというだけに止まりません。心の安寧に加えて、戦争や災害さらにはさまざまな不幸から立ち上がり、乗り越える力をも含むものです。21世紀になっても戦争は止まず、大震災や異常気象などの自然災害が頻発しています。今こそ平和の価値があらためて問い直されています。平和はそのままで与えられるものではありません。平和は、わたしたちが能動的で意識的に関与することによってはじめて保たれるのです。

イオンは平和に反することは決して行いません。また、そうした行為や活動には与しません。イオンが目指すのは積極的な平和への貢献です。

人間に関しては、一人ひとりを信じ、尊重することで、その人の能力や思いが花開き、さらに人とつながることによって、より幸福な状態が生じます。

岡田名誉会長は、小売業を「人間くさい産業」と呼びました。それは「人の道」を重んじること、すなわち人間を尊重することです。個性、尊厳、自律性の尊重は言うまでもありません。それに加えて、人間が持つ可能性を信じ、仕事や学びを通じて成長し、よりよく人間的になることを後押しすることでもあります。人間はひとりで成長することは困難です。「人とのつながり」のなかで、他者とともによりよく人間的になっていくのです。それは幸福の実現であるとともに、人の間にある規範を求めるものでもあります。小売業は人々の幸福と規範の産業なのです。

地域もまた、地域ごとの多様性と自立性に敬意を払い、その特有のニーズに応え、手入れをし続けることによってはじめて豊かなコミュニティが実現します。

小売業はもともと地域に根ざした産業であり、地域とともに繁栄するものです。地域やそこにおけるコミュニティの豊かさを守っていくためには、不断に手入れを怠らないことが必要です。それは、小売業の重要な使命のひとつなのです。これからはますます、地域やコミュニティの重要性が増していきます。イオンは、地域に特有の産品を発展させ、地域の人々の豊かな暮らしを促進し、地域やコミュニティの繁栄に能動的に貢献してゆきます。

戦災から復興した岡田屋

戦後初の大売出しのチラシ

創業の精神、イオンの価値観を伝えるイオン歴史館

イオンが目指しているのは、こうした平和への積極的な関与・人間の幸福と規範の下支え・地域の繁栄への貢献です。それが「お客さまを原点に」、すなわちお客さまを第一にするということの重要な基盤なのです。

お客さまを第一にするということは、自分第一ではない、つまり自分たちの都合で考え、動くのではないということです。その反対に、常にお客さまを第一に考え、誠実に行動すること、これがイオンの基本です。これを自分を映す鏡とし、すべてのイオンピープルのあらゆる判断と行動の基準とします。ややもすれば自社や自分にとって有利なこと、都合が良いことに流されがちになりますが、そうした傾向を断固否定し、乗り越えてゆくことが求められています。

そのためには、イオンは革新し続ける企業集団でなければなりません。

企業にとって、成長し存続し続けることは最重要の課題です。しかし、革新し続けることなくしては、企業は衰退し滅亡してしまいます。たとえ現状を続けることが安定的で楽なことであっても、それに安住せず、常に自らを変えていかなければなりません。そして、革新し続けるためには、お客さまの変化やさまざまな社会の変化について、常に先を見る先見性や洞察力が必要です。イオンピープルの一人ひとりは、お客さまの生活や社会が求めるものの進化と変化を先取りしてゆく所存です。

家業から企業へ、そして産業へとイオンは変貌してきました。もともとダイナミックな企業文化を備えているのです。何よりも恐れているのは、ますます激しくなっていく変化の中で、求められる革新や企業家精神を失い、大企業に特有の停滞に陥っていくことです。変化することのない、現状のままが続くような静的な均衡は続きません。より新しい革新に取って代わられないためには、イオンが最大かつ最先端の革新者であり続けるしかありません。それは創業の精神を保持することで常に刷新し続け、時代を先取りした組織であるという覚悟なのです。

イオンは、以上のことの浸透と実践を通じて、平和、人間、地域の維持と発展に貢献しうると信じて、行動してゆきます。

イオンの基本理念に関して詳しくはこちら　https://www.aeon.info/company/concept/

不確実な時代に先んじて、ともに未来を切り拓くイオングループへ

変えないことは、お客さまを原点に、くらしを事業領域として、お客さまの豊かさや喜びを生み出すこと。
変えることは、一人ひとりの心をかつてないほど捉え、未来のくらしを創造していくこと。
誰もが心豊かにくらす、笑顔あふれる未来のために、イオンは「大切にする姿勢と誓い」を共有し、
くらしの共創をリードしていきます。

ビジョンステートメント

一人ひとりの笑顔が咲く　未来のくらしを創造する

イオングループが実現したい未来

お客さまが「明るくなっていく社会」と「自分らしい幸せ」を実感できることで「心豊かにくらし、笑顔が広がる」未来

変化の速度が速まり、多様な事象が絡み合うことで、予測の難しい未来になっていきます。驚きの出会いや嬉しい発見がある一方、複雑で深刻な課題が増えているかもしれません。技術の進歩により人の可能性は広がります。お客さまは、自分らしさ、共感、信頼など心の内側から得られる豊かさをより求めるようになるでしょう。私たちは、お客さま基点で「実現したい未来」を想い描いています。

お客さまが「明るくなっていく社会」を実感できる未来

くらしの中で新たな便利さ、快適さ、心躍る体験が増える。社会の発展がもたらす環境問題や格差など、負の側面に対する不安が解消されていく。それらを通じて、明るくなっていく社会を実感できる未来を実現したい。

お客さまが「自分らしい幸せ」を実感できる未来

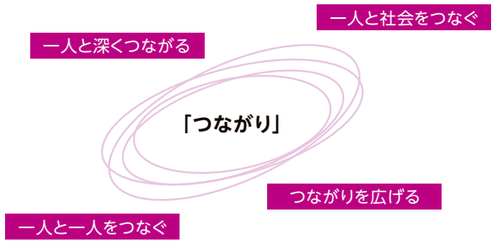
自らの可能性を知り、自分を伸ばすことができる。個性を発揮し、魅力を表現することができる。自分らしくいられる場所があり、共感、信頼し合える人がいる。それらを通じて、一人ひとりが自分らしい幸せを実感できる未来を実現したい。

お客さまが「心豊かにくらし、笑顔が広がる」未来

時に相反することもある、社会の発展と一人ひとりの幸せ。その両立により、お客さまが心豊かにくらし、笑顔でいる。そのような笑顔がどこまでも広がる未来を実現したい。

イオングループのありたい姿

くらしの共創をリードし一人ひとりも社会全体もより豊かにするグループ



私たちは、お客さまやビジョンに共感する仲間とともに、笑顔が広がる未来のくらしを創造するグループでありたい。自らの革新と共創のリードにより、一人ひとりも社会も豊かにし、成長するグループでありたい。商品・サービスを進化させ、さらに「つながり」をキーワードとする役割を果たすことで、いままでにない価値を提供していきます。

大切にする姿勢と誓い

絶えず革新し続ける企業集団としてビジョンを実現するために。
私たちは、次の3つの姿勢と1つの誓いを共有し、笑顔が咲く未来のくらしを創造していきます。

3つの姿勢

「想いをもとに、自発的に行動する」

お客さま基点にそれぞれが想いを持ち、発信し、行動します。自発的な行動で生み出す対話と協働のうねりを、革新の力にしていきます。

「学び続け、新たな価値を創造する」

学び続けることで、行動の可能性を広げます。実践から知恵を拓き、自らの専門性を磨くことで、新たな価値を創造していきます。

「つながりを築き、育み、共創する」

企業、グループ、組織の壁を越え、多様なつながりを築き、育みます。つながりによって、互いの学びと価値創造のサイクルを加速させ、未来のくらしを共創していきます。

1つの誓い

「真摯、誠実であり続ける」

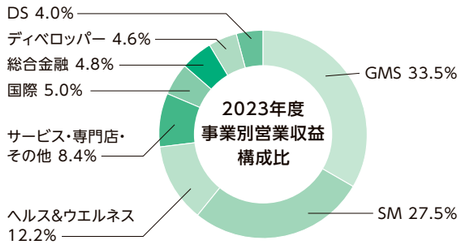
真摯さ、誠実さがあるからこそ、行動が信用され、想いに共感が生まれます。お客さまや仲間からの共感が、共創の起点となります。私たちは、これからも真摯、誠実であり続けることを誓います。

イオングループ未来ビジョンに関して詳しくはこちら　https://www.aeon.info/company/code_of_conduct/

イオンの主な事業

イオン株式会社
（純粋持株会社）

小売、ディベロッパー、金融、サービス、およびそれに関連する事業を営む会社の株式を保有することで、当該会社の事業活動の管理を行っています。



GMS（総合スーパー）事業
専門性の高い品揃えとサービスで、お客さまの衣食住をサポートする総合スーパーを展開しています。

SM（スーパーマーケット）事業
地域に密着したスーパーマーケット、小型店、コンビニエンスストアを展開。食品を中心に、毎日の暮らしに欠かせない商品の品揃えとサービスの充実を図っています。

DS（ディスカウントストア）事業
家計を応援し続けるために、商品仕入れの集約、物流の統合など、ローコスト施策を実施し、徹底的に低価格を追求する経営の実現に取り組んでいます。

ヘルス&ウエルネス事業
地域の皆さまの健康をサポートするドラッグストア・調剤薬局を展開。医薬品や健康食品、日用品など、品揃えの充実に加え、在宅調剤などのサービス拡充に取り組んでいます。

総合金融事業
クレジットカード、銀行、保険、電子マネー「WAON」を連携させた小売業発の総合金融サービスを日本および中国・ASEAN各国で展開しています。

ディベロッパー事業
日本および中国・ASEAN各国で地域と共生するショッピングモールを開発・運営。グループ各事業と連携しながら、サービスの提供や施設の充実を図っています。

サービス・専門店事業
毎日の生活を一層便利で快適にするサービスの提供と、お客さまの幅広いニーズに応える多彩なジャンルの専門店を展開しています。

国際事業
中国・ASEAN各国において、国や地域ごとに異なるニーズやライフスタイルに合わせた商品・サービスを提供しています。

機能会社・その他
イオンのブランド「トップバリュ」をはじめとする商品開発や品質管理、物流、システム、ITといったインフラ構築を担っています。

主なグループ企業
太字は株式公開会社　2024年3月1日現在

純粋持株会社
イオン㈱

GMS（総合スーパー）事業
イオン九州㈱
イオン北海道㈱
㈱キャンドゥ
㈱サンデー
アクティア㈱
イオンウエルシア九州㈱
イオンスーパーセンター㈱
イオン東北㈱
イオンバイク㈱
イオンリカー㈱
イオンリテール㈱
イオン琉球㈱
オリジン東秀㈱
トップバリュコレクション㈱

SM（スーパーマーケット）事業
㈱いなげや
㈱フジ
マックスバリュ東海㈱
ミニストップ㈱
ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス㈱
イオンサヴール㈱
イオンマーケット㈱
㈱カスミ
㈱光洋
㈱ダイエー
ビオセボン・ジャポン㈱
まいばすけっと㈱
マックスバリュ関東㈱
マックスバリュ北陸㈱
㈱マルエツ

DS（ディスカウントストア）事業
イオンビッグ㈱
㈱ビッグ・エー

ヘルス&ウエルネス事業
ウエルシアホールディングス㈱
㈱イオンボディ
イオンレーヴコスメ㈱
ウエルシア薬局㈱
㈱ウェルパーク
㈱クスリのマルエ
㈱コクミン
コスメーム㈱
シミズ薬品㈱
㈱ふく薬品
㈱フレンチ
㈱丸大サクラ キ薬局
㈱よどや
㈱MASAYA

総合金融事業
イオンフィナンシャルサービス㈱
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) CO., LTD.
AEON CREDIT SERVICE (M) BERHAD
AEON THANA SINSAP (THAILAND) PCL.
イオン・アリアンツ生命保険㈱
㈱イオン銀行
イオン住宅ローンサービス㈱
イオン保険サービス㈱
イオン・リートマネジメント㈱
フェリカポケットマーケティング㈱
ACSリース㈱
AEON Financial Service (Hong Kong) Co., Ltd.
AFSコーポレーション㈱

ディベロッパー事業
イオンモール㈱
イオンタウン㈱
㈱OPA

サービス・専門店事業
イオンディライト㈱
㈱イオンファンタジー
㈱コックス
㈱ジーフット
㈱イオンイーハート
イオンエンターテイメント㈱
イオンカルチャー㈱
イオンコンパス㈱
イオン・シグナ・スポーツ・ユナイテッド㈱
イオンペット㈱
イオンライフ㈱
プランシェス㈱
㈱プレステージシューズ
㈱未来屋書店
㈱メガスポーツ
メガペトロ㈱
リフォームスタジオ㈱
R.O.U㈱

国際事業
【中国】
AEON Stores (Hong Kong) Co., Limited
AEON (CHINA) CO., LTD.
AEON EAST CHINA (SUZHOU) CO., LTD.
AEON (HUBEI) CO., LTD.
AEON South China Co., Limited
BEIJING AEON CO., LTD.
GUANGDONG AEON TEEM CO., LTD.
QINGDAO AEON DONGTAI CO., LTD.
【ASEAN】
AEON CO. (M) BHD.
AEON BIG (M) SDN. BHD.
AEON (CAMBODIA) Co., Ltd.
AEON ORANGE COMPANY LIMITED
AEON (Thailand) CO., LTD.
AEON VIETNAM Co., LTD.
DONG HUNG INVESTMENT DEVELOPMENT CONSULTANCY JOINT STOCK COMPANY LIMITED
PT.AEON INDONESIA

機能会社・その他
アビリティーズジャスコ㈱
イオンアイビス㈱
イオンアグリ創造㈱
イオングローバルSCM㈱
イオンスマートテクノロジー㈱
イオントップバリュ㈱
イオンネクスト㈱
イオンフードサプライ㈱
イオンベーカリー㈱
イオンマーケティング㈱
コルドンヴェール㈱
㈱生活品質科学研究所
Aeon Digital Management Center
AEON TOPVALU (CHINA) CO., LTD.
AEON TOPVALU (HONG KONG) CO., LIMITED
AEON TOPVALU (THAILAND) CO., LTD.
AEON TOPVALU VIETNAM COMPANY LIMITED
Tasmania Feedlot Pty. Ltd.

■（公財）イオン環境財団
■（公財）イオンワンパーセントクラブ
■（公財）岡田文化財団

数字で見るイオン
2024年2月末現在

連結営業収益
約 9兆 5,535億円

イオンカード等会員数 ※1
約 5,027万人
うち海外会員数 1,878万人

電子マネーWAON累計発行枚数
（2007年からの累計）
約 1億 195万枚

グループ従業員数
約 59.9万人

店舗数 ※2
17,887店舗/カ所

展開国数
日本、中国、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、ベトナム、カンボジア、インド、ミャンマー、ラオス、シンガポール、モンゴル、オーストラリア
14カ国

国内店舗の使用電力再エネ普及率
約 55%

植樹本数 累計
（1991年からの累計）
約 1,268万本

電気自動車充電ステーション設置数
国内外に 373店舗 3,156基

ご当地WAON累計寄付金額
（2009年からの累計）
約 29億 8,517万円

各自治体との包括連携協定
141の自治体

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン累計贈呈相当額
（2001年からの累計）
約 51億円

※1 イオンフィナンシャルサービスの海外ハウスカード会員数を含む
※2 連結子会社、持分法適用関連会社の店舗および拠点数

イオンの成長は地域の豊かさとともに

商品

独自の価値を創造し売上高1兆円を達成

イオンの基本理念を具現化するイオンのブランド「トップバリュ」。あらゆるコストを見直した生活応援価格の実施や、環境配慮商品への注力など、グループの有するインフラを活用しながらお客さまの声を取り入れた開発を進め、売り上げを拡大しています。

トップバリュ

ひとつひとつの商品を通じて、ひとに、地球に、幸せな未来を届けるトップバリュは3つのブランドで展開しています。

さあ、ワクワクするほうへ!

メインブランド「トップバリュ」は、お客さまのくらしがもっと楽しく、もっと幸せになる、そんなワクワクする独自価値を持った商品をお届けします。

もっと安心、もっとやさしく

「トップバリュ グリーンアイ」は、自然と体にやさしく、持続可能な未来につながる商品づくりを目指します。

今日も明日も、ほしいもの

「トップバリュベストプライス」は、一人ひとりの毎日のくらしや未来に寄り添う商品をいつでも手ごろな価格でお届けします。

はじまりも、これからも　お客さまの声をカタチにするトップバリュ

50 Anniversary th

さあ、ワクワクするほうへ!

TOPVALUは次の50年へ。

ジェーカップ(1974)

1974年、オイルショックを背景としたメーカーによるカップラーメン値上げ要求をきっかけに、お客さま視点で考え独自商品の開発に着手。それまで当たり前だった付属のフォークを省く工夫などにより、低価格を実現しました。最近は若い世代のファンを広げる商品の開発に取り組む半面、原点であるお客さまの声を取り入れる商品づくりは昔も今も変わりません。

若い世代の声を反映して開発した“新感覚”おやつ「トキメクおやつ部」。

デジタル

デジタルシフトの加速と進化で快適なお買物体験を提供

お客さまの利便性向上のため、店舗ではセルフレジ導入を拡大するとともに、AIの活用により食品ロスを削減。また、高まるネットスーパー需要に対応し、首都圏に向けた新たなオンラインマーケットを開始しています。さらに、リアルとオンラインをつなぐイオンのトータルアプリ「iAEON」は、一人ひとりのお客さまに寄り添ったサービスを提供しています。

オンラインマーケット「Green Beans」は高い鮮度管理や1時間単位の配送時間設定など画期的なお買物体験を提供。

販売実績や環境条件を分析して適切な割引価格を提示するAIカカクなどの導入により、店舗業務の生産性が20%向上。

ヘルス&ウエルネス

地域の健康ステーションを目指す

ウエルシアでは、専門知識を持つ管理栄養士、薬剤師、ビューティーアドバイザーがご相談をお受けし、お客さまの健康や美容に関わる幅広いニーズに応えています。

調剤併設店舗を拡大するとともに、プライベートブランドにも注力し、さらなる健康需要の高まりに対応。移動販売やオンライン調剤などにより、店舗のないエリアもカバーしています。また、ショッピングセンターにおいて、自然や公園を併設した憩いの場を拡大し、ウエルネスの提供にも注力しています。

イオン生活圏

地域密着の取り組みを進めお客さまのニーズにきめ細かく対応

地域のお客さまに最も支持される企業となるため、地域基点の取り組みを進めています。また、各エリアで事業会社の統合を進めて一定規模のスケールを持つことで、地域が抱える独自の課題解決に貢献し、地域とともに豊かな暮らしの実現を目指しています。

(株)フジとマックスバリュ西日本(株)が統合し、新生フジが誕生。中四国エリアでこれまで以上に地域に密着した経営を推進。

アジア

アジアシフトを加速し地域とともに成長

国や地域ごとの課題に対応し、独自価値のある店舗や商品の開発を進め、新しいライフスタイルを創造しています。また、現地での雇用・人材育成を行うことで地域経済の発展を目指します。

「イオン デルタマス店」(インドネシア)のデリカコーナーでは日本のメニューやデザートなど、約350品を揃え、バラエティー豊かな食を提供。

「イオンモール武漢江夏」(中国)では、シネマをはじめ屋内遊園地やスポーツ&エンターテインメント施設などの体験エリアを設置。

イオンとともに自然と環境に貢献する暮らしへ

環境

事業活動と環境活動が一体となったグリーン戦略を推進

植樹により成長したイオンの森でお客さまとともにいきもの調査を実施。

植樹活動・里山づくり

イオンが、30年以上にわたり続けている植樹活動。イオンの新しい店舗がオープンする際、地域のコミュニティの場となるように「イオン ふるさとの森づくり」として、お客さまとともに店舗の敷地内に植樹をしています。また、人と自然のバランスが取れた共生関係を目指した「イオンの里山づくり」にも取り組んでいます。

ボトル to ボトル プロジェクト

イオンの店舗でお客さまから回収したペットボトルをリサイクルし、トップバリュの製品原料の一部に使用。再商品化して販売することで、循環型社会の構築に取り組んでいます。

持続可能な調達

適切な資源管理に基づく漁業や養殖の証であるMSC認証・ASC認証を取得した水産物や、オーガニック認証を取得した農産物などの調達を拡大しています。

環境に優しい商品開発

トップバリュを揃えるイオンでのお買物で自然と環境負荷低減に参加できるように取り組んでいます。2025年までに全てのトップバリュ商品を環境配慮商品へ切り替えます。

R へらす Reduce　R くり返し使う Reuse　R リサイクル Recycle

店舗を起点とした脱炭素への取り組み

店舗の100%再エネ化を目指すとともに、家庭の余剰再エネ電力を電気自動車に蓄えて来店された際にWAONポイントで買い取るなど、再エネを地域内で無駄なく利用する仕組みを構築しています。

平和

心の安らかさや、乗り越える力に貢献

防災・災害対応

日頃から店舗の地震安全対策や防災拠点化を進め、地域の人々や行政とともに防災活動を行い、有事の際、地域のライフラインとなるべく日々、地域の皆さまの安全・安心に向けた防災対策に取り組んでいます。

令和6年 能登半島地震の被災地への支援活動

地域行政からの要請に基づき、全国のイオン物流センターから被災地へ支援物資をお届け。

令和6年 能登半島地震緊急支援募金を、国内外のイオンで実施。被災地の自治体へ募金を贈呈しました。

毎日のお買物で、地域を元気に！ ご当地WAON

ご当地WAONは、ご利用金額の一部をイオンが寄付し、地域の活性化に役立てていただくイオンの電子マネーです。2009年から開始し、応援できる地域は全国176カ所※に広がっています。

※2024年4月末現在

ご当地WAON第1号として誕生した「石見銀山WAON」カード。（2023年より現デザインに変更）

地域

地域とともに、コミュニティの発展と生活文化の向上を目指す

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

この取り組みは、お買物を通して地域のボランティア団体を応援する仕組みです。毎月11日に、お客さまが精算時に受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内のBOXに入れることで、レシート合計金額の1%相当の品物をイオンが各団体に寄贈する取り組みです。

人間

従業員とその家族、お客さま、会社の3者の満足を追求

教育は最大の福祉

イオンは、人との関わりの中で、人間を尊重し、つながりを大切にしています。人間として成長することが従業員にとって最大の福祉であるという考えに基づき教育環境を整えています。

1969年に開講したジャスコ大学を前身としたイオンビジネススクールは、「自分のキャリアは自ら切り拓く」という姿勢を大切に将来目指す職務に必要な専門知識を自主的に学ぶ講座で、意欲ある人材の自己実現を支援しています。

イオンのDE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）

イオンは、誰もが公平な機会を与えられ、それぞれの個を尊重し、活用される組織・社会を目指しDE&Iを推進しています。従業員一人ひとりが活躍することで、お客さま満足を高めていきます。

多様満足 AEON Diversity

イオンは、多様な人材の活躍を推進するための知識の習得、理解を促進するダイバーシティ研修や女性活躍推進研修を実施しています。

イオンの主な歩み

1758 岡田屋創業
1926 (株)岡田屋呉服店設立
1969 ジャスコ(株)誕生

1972 やまてや(株)、やまてや産業(株)、京阪ジャスコ(株)(旧(株)シロ)を合併

1974 東京・大阪・名古屋の3市場へ同時上場

プライベートブランド商品の先駆け
ジェーカップ発売

1980 ミニストップ(株)を設立

1981 日本クレジットサービス(株)を設立
(現 イオンフィナンシャルサービス(株))
1985 マレーシアに海外1号店を開店

1989 ジャスコグループからイオングループへ改称

1994 「トップバリュー」発売(現 トップバリュ)

マックスバリュー1号店を開店
(現 マックスバリュ)

1995 ドラッグス(株)を設立

1997 (株)イオンファンタジーを設立
1999 イオンシネマズ(株)設立
(現 イオンエンターテイメント(株))

2001 ジャスコ(株)からイオン(株)へ社名変更
イオン(株)が(株)マイカルの支援を開始
調剤・ドラッグ連合「イオン・ウエルシア・ストアーズ」発足
2003 イオン(株)が委員会等設置会社へ移行
(現 指名委員会等設置会社)
2007 イオン(株)が(株)ダイエーの支援を開始
電子マネー「WAON」導入

イオン銀行の開業

2008 イオン(株)が純粋持株会社体制へ移行

2011 中国本社・アセアン本社を設立
まいばすけっと(株)設立
2013 中国でのマックスバリュ1号店開店
2014 ベトナム1号店開店

カンボジア1号店開店
2015 インドネシア1号店開店
ユナイテッド・スーパーマーケット・ホールディングス(株)設立

2016 ミャンマー1号店開店

2020 「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」を策定
2021 イオンのグループトータルアプリ「iAEON」始動

2023 オンラインマーケット「Green Beans」始動

「トップバリュ」売上1兆円到達
2024 株式上場50周年

事業

創業〜1970年代
ジャスコ誕生と連邦制経営

1980年代
生活水準の高度化のなか、小売業を中心とした多角化経営を国内外で推進

1990年代
日本経済の低迷や少子高齢化の進行のもと、業態構造の再構築を実施

2000年代
ジャスコからイオンへM&Aによる成長

2010年代
消費環境の多様化への対応や、成長するアジア市場への事業展開を強化

2020年〜現在
5つの変革とグリーン戦略を推進

サステナビリティ

1979 財団法人岡田文化財団設立
(現 (公財)岡田文化財団)
1980 インドシナ難民救済募金実施

1990 「イオングループ1%クラブ」設立
(現 (公財)イオンワンパーセントクラブ)
「イオングループ環境財団」設立
(現 (公財)イオン環境財団)
1991 「イオン ふるさとの森づくり」開始

「クリーン&グリーン活動」開始
「買物袋持参運動」開始
「店頭資源回収」開始
1993 有機栽培などの農作物を「グリーンアイ」として展開開始
(現 トップバリュ グリーンアイ)

1996 「こどもエコクラブ」の活動支援開始
(現 イオン チアーズクラブ)

2000 環境負荷低減を担う「グリーンアイ」「共環宣言」が「トップバリュ」のサブブランドとして展開

2001 「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」開始
全従業員が地域への貢献活動を行う「イオン・デー」開始
2003 「イオンサプライヤーCoC(取引行動規範)」策定
2004 「トップバリュ フェアトレードコーヒー」販売開始

太陽光発電システムを店舗に導入
2005 エコストア1号店「イオン千種SC」開店
(現 イオンタウン千種)
2006 日本の小売業で初めて、MSC認証の魚介類を販売開始
2007 食品売場でのレジ袋無料配布を中止
2008 「イオン温暖化防止宣言」発表
「イオンの人権基本方針」策定

2010 「イオン生物多様性方針」策定
2011 「イオン サステナビリティ基本方針」策定
「イオン自然冷媒宣言」発表
2012 「イオンのecoプロジェクト」開始
東北復興支援「心をつなぐプロジェクト」開始

2013 累計植樹本数が1,000万本を突破
2014 「イオン持続可能な調達原則」策定
ASC認証の魚介類を販売開始
2017 「イオン持続可能な調達方針」策定
「イオン食品廃棄物削減目標」策定
フードドライブを開始

2018 「イオン脱炭素ビジョン」策定
2019 「10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ」日本プロジェクト始動
日本の小売業で初めて「Loop」へ参画を発表

2020 「イオン プラスチック利用方針」策定
「イオン こども食堂応援団」発足

2022 「イオン ハートフルボランティア」開始

2023 国内初「新GGNラベル」付き農産品を展開
第1回イオンSATOYAMAフォーラム開催

公益財団法人 岡田文化財団 (since 1979)
三重県の芸術文化の振興や伝統文化の継承、伝統工芸の保存・育成、地域おこしなどを目的として、1979年に設立し、2024年に45周年を迎えました。「公募助成事業」「主催公演事業」「美術館事業」「奨学金給付事業(風樹会)」を柱に事業活動を行っています。
https://okadabunka.or.jp/

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ (since 1990)
「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、1990年に設立。グループ主要企業各社が税引前利益の1%を拠出し、「子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域の発展への貢献」「災害復興支援」を主な事業領域として活動しています。
https://aeon1p.or.jp/1p/

公益財団法人 イオン環境財団 (since 1990)
地球環境をテーマにした日本初の企業単独の財団法人として、1990年に岡田卓也名誉会長相談役により設立。「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の事業を柱に活動し、人と自然が共生する持続可能な新しい関係性を構築するため、「新しい里山」づくりを目指しています。
https://www.aeon.info/ef/

会社案内デジタル版

当冊子はWEB上でもご覧いただけます。

https://www.aeon.info/company/message/profile/

イオンでは、さまざまな媒体を発行し、情報を発信しています。

コーポレートサイト

イオンの活動をもっと詳しく知りたい方はこちら。企業概要や沿革、IR情報、リリースなどの会社情報をはじめ、イオンが取り組む環境・社会貢献活動について掲載しています。

https://www.aeon.info/

イオンの根っこ

イオンの基本理念を具現化したさまざまな革新エピソードを通して、創業から大切にしている想いをお伝えする冊子です。イオンが展開する国々の皆さまにご覧いただけるよう、全12言語で公開しています。

https://www.aeon.info/company/message/aeonbook/

イオンレポート（統合報告書）

財務情報と、ESG（環境・社会・ガバナンス）などの非財務情報を取りまとめた報告書です。イオンが目指すありたい姿に向けた中長期の価値創造ストーリーを紹介しています。

https://www.aeon.info/ir/library/aeon-report/

VRイオン歴史館

イオンの創業をはじめ、基本理念の成り立ちや企業文化などを、長年にわたる歴史を通して皆さまに広くお伝えしている施設「イオン歴史館」をWEB上で疑似訪問体験できるVRコンテンツです。

https://aeonhistoricalmuseum.jp/

2024年5月発行